

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	22958000102		
法人名	有限会社 サークルツ		
事業所名	まるにグループホーム		
所在地	静岡県牧之原市勝俣1265-3		
自己評価作成日	令和5年7月24日	評価結果市町村受理日	令和5年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800102-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「まるにの介護理念・介護方針」に基づき、日々、利用者様の支援に努めています。 ・「コロナ」が第5類の感染症扱いになったが、職員は、継続して健康チェックを行い、感染予防対策をしている。 ・平日の面会はりモートで行い、日曜日に関しては要相談で実施している。(令和5年5月より) ・室内の装飾は、毎月、利用者様と職員で制作をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症ケアの基本的な考え方を再確認しながら、周辺症状においては「原因が解らなければケアの方向性はみつからない」として、研修やツールを活用した分析と検証を重ね、認知症ケア専門士の資格をもつ管理者の一貫した指導のもと、根拠あるチームケアが進められています。また、「報告・連絡・相談」を重視し、とりわけケアに関わる情報共有では「身体拘束廃止委員会」は全員参加とし、欠席者が多ければ日程を改める」ほどの徹底ぶりで、職員一人ひとりが組織の一員としての自覚を高める環境を整え、運営推進会議で提示された意見は事業所通信に掲載するなど、運営の透明性にも尽力しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示している。必要に応じて説明している。	理念は年度初めに読み上げ、管理者と計画作成担当者が折りに触れ引用して「今の言動はどうだろう」と再考を促すとともに、理念に基づいたケアができていたか、毎月の棟会議で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においては、感染予防対策として、外部との関わりがある行事は実施していない。	5類感染症移行後もリスクは変わらないため、積極的な交流の機会は設けていませんが、春に多くの観光客の目を楽しませている「チューリップまつり」会場、県営吉田公園での花苗植栽は10年以上続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・相談、問合せがあった時に話をする機会は有る。 ・民生委員の会合などで認知症の話をして頂く事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域推進会議でできた内容を棟会議等で報告している。	5月より通常開催とし、利用状況、活動報告、事故・ヒヤリハット報告等、2ヶ月間の事業所の運営の詳細を伝えています。会議での意見は事業所通信に掲載して発信し、参加できない家族にも共有されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・その都度実施している。	実地指導で助言があった点は速やかに改善しています。市長寿介護課の依頼により管理者がキャラバンメイトとして小学校や事業所、民生委員の集いに出向き、地域や職場での認知症理解への一翼を担っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・実施	3ヶ月ごとにおこなう身体拘束廃止委員会は「全員参加」として、欠席者が多ければ日程を改めるほど、本件への真摯な姿勢を貫いています。研修ではアンケートや小テストから得られた課題や、職員の現状に見合った内容を取り入れ、現場に役立てています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・「意見箱」の設置	運営推進会議にはできるだけ出席してもらえよう、順番に声をかけています。意見箱への投書はありませんが、コロナ禍での書面開催時から募った意見や要望は事業所通信に掲載し、サービス向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者会議、棟会議の実施。必要に応じて個別に対応をする。	棟会議では発言する職員に偏りがあるため、主任が一人ひとりに意見を求めています。「車いすの高さに合わせたテーブルを」との提言からオリジナルの食卓を製作し、食事摂取時の適切な姿勢保持に貢献しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・施設経営者が実施 ・コロナ感染対策(抗原検査キットの利用)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内研修は、毎月実施 ・個別研修は、リモート研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・サービス事業所会の研修に参加 ・有志による認知症勉強会「耳より会」への参加の促し。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・介護者様(ご家族ご兄弟等)からの情報を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・連絡や相談には随時応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・リモート面会や直接面会などを実施し、本人と家族の良好な関係づくりに留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・「コロナ」が第5類にはなったが、自由な外出はまだ、しばらくは無理である。	塗り絵を趣味とする人には、24色の色鉛筆と塗り絵の本が絶えることなく家族から届けられています。病院受診の日には家族と一緒に昼食を食べ、自宅で夕方まで過ごす人もおり、関係が途切れない支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士で、叱咤激励をし過ぎる場合がある為、職員が仲立ちをなり、会話の切り替えやお茶タイムなどで気分転換を図っていく様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・一昨年前は、施設の方へ寄ってくださった介護者様がいたが、昨年は、なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人と話をする機会を設け、会話の中で利用者様ご本人の意向や思いを聞くようにしている。	アセスメントシートや家族からの情報を話材にして利用者と会話をもち、洋服の趣味や好きな食べ物、「花を育てるのが好きだった」など本人の言葉で聴き出して、レクリエーションや趣味の活動につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族に聞いて確認をしたりして、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者様の状態確認をしている。 ・職員間での状況共有をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・努力している。	利用者一人ひとりの課題を抽出して優先順位を定め、チームとしてケアの方針を共有することを重視し、棟会議でのカンファレンスが活用されています。計画に沿ったサービスの実施を裏付ける記録にも力を入れています。	提供したサービスの証明となる介護記録の意味を再認識し、適切な記録についてさらに研鑽されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・個々の状態に応じて、関わりが持てる様に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・実施している。	訪問看護事業所との連携も確かな協力医への変更が5名、かかりつけ医を継続する人が4名です。かかりつけ医へは体調変化や服薬の要望、支援経過を書面に携え、家族が受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療関係者との連絡、情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族には話をさせて頂いている。	開設7年目を迎え徐々に介護度も高くなる状況にあります。食事が摂取できなくなり重度化が予想される場合は医師の判断を仰ぎ、事業所でできること、できないことを説明して本人、家族がよりよい選択ができるよう話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修の実施 ・資料を配布		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・自施設での訓練を実施しているのみ。	通報の仕組みや初期消火、応援要請、避難誘導など一人の職員が対応すべき行動を明確にして、夜勤を担う全職員が夜間想定訓練を体験し、実施後は反省点を挙げて実践的な防災行動の定着に取り組んでいます。	チェックシートによる点検等、職員一人ひとりの防火管理への関心が高まることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・実施、努力している。	排泄や入浴など羞恥心への配慮を要する場面は同性介助としています。帰宅願望や同じ話の繰り返しには否定せず耳を傾け、その行動に至る要因を分析し、本人が安心できる接し方を棟会議で検証しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・実施、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・危険を伴う事がない様に注意しながら、実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・個々の希望の中で、出来る限りの意向には沿っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・臨機応変に対応している。	朝・夕は業者から調理品が搬入されていますが、昼食は併設事業所全体を賄う厨房より提供され、栄養面、好みを反映しています。テイクアウトやおやつ作りの日も設け、梅干し、紫蘇ジュース、干し柿作りはお手の物です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・実施している。	排泄リズムが乱れた利用者ほど落ち着かない傾向があることから、便秘と認知症の関連に着目して排便間隔の個人差を掴み、医師と相談しながら内服薬の種類やタイミングを試行錯誤して一定の成果を得ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個別に記録観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴実施の計画表を毎週作成している。 ・3回/W入浴している。	体調を気遣いながらも湯船にゆったり浸かる満足感を大事にしています。温度計を備え夏期は39℃、冬期は40～41℃とし、気分よく入れる声かけ、湯量を調節できるシャワーヘッドなど、いたわりに包まれた入浴です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・できる範囲内で実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	※第5類にはなったが、コロナ感染予防対策をとりながら実施している。 ・敷地内の散歩や花の水かけなど・・・ ・戸外活動(公園内の散策・ドライブなど・・・)	送迎車両の往来を避け、朝は9時～、夕方は4時以降を散歩の時間としています。感染予防対策を講じながら少人数で勝間田公園や龍眼山の桜、藤や紫陽花、買い物ドライブ等にも出かけ、気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理は施設で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施、努力している。	清掃・換気はチェック表をもとに慣行され、室内でも季節を感じられるよう利用者と一緒に毎月壁面を制作しています。春には桜、菜の花、鯉のぼり、夏は花火、葡萄、秋には紅葉などがフロアを彩っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・実施、努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人やご家族の意向を伺っている。	昼食後に短時間居室で横になる人もいますが、日中はほとんどの人がリビングで手先や体を動かすレクに興じて過ごし、家族の写真や母の日に贈られた花飾りなどが見守る居室は安眠の場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・実施している。		